

# 「キャリア・パスポート」の作成及び活用について

## 1 「キャリア・パスポート」とは

文部科学省では、以下のように定義しています。

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

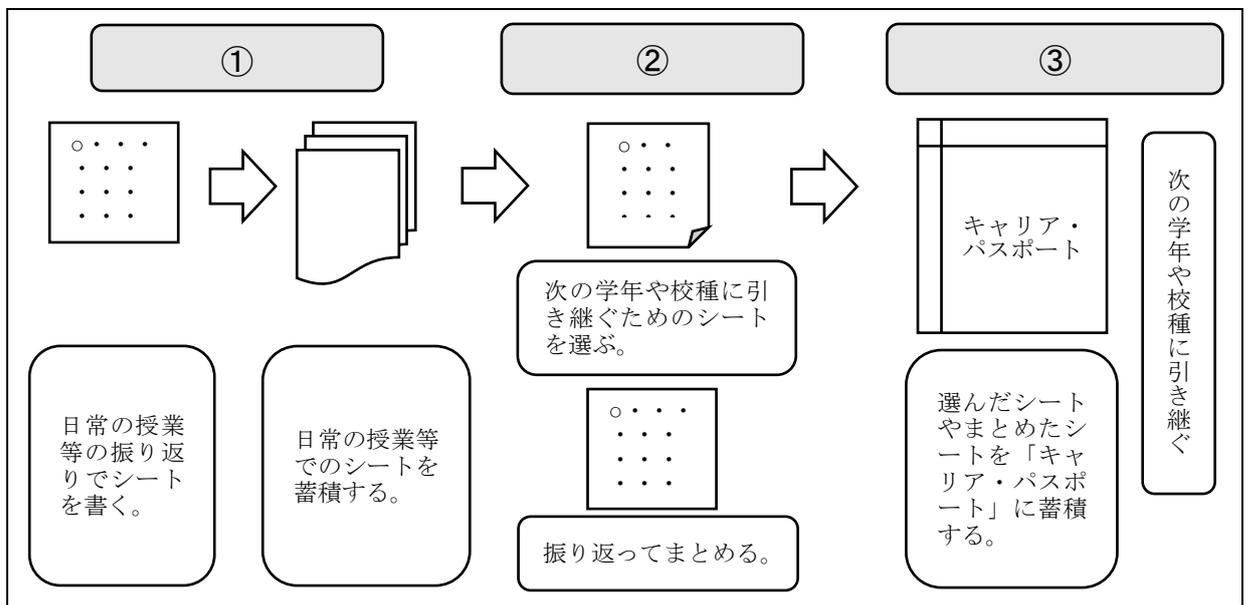
## 2 「キャリア・パスポート」の作成

- ① 児童生徒が日常の授業等の振り返りでシートを書き、蓄積します。

シートは学校でこれまで作成したもの、文部科学省や県教育委員会の例示資料を基に作成したものを使用します。

- ② 児童生徒が年度始めや各学期末、年度末の学級活動等の時間にこれまで書いたシートの中から次の学年や校種に引き継ぐためのシートを選んだり、振り返ってシートにまとめたりします。授業例が巻末に掲載されています。

- ③ 児童生徒が選んだシートやまとめたシートをファイルに綴じて次の学年や校種に引き継ぎます。このファイルのことを「キャリア・パスポート」と呼びます。



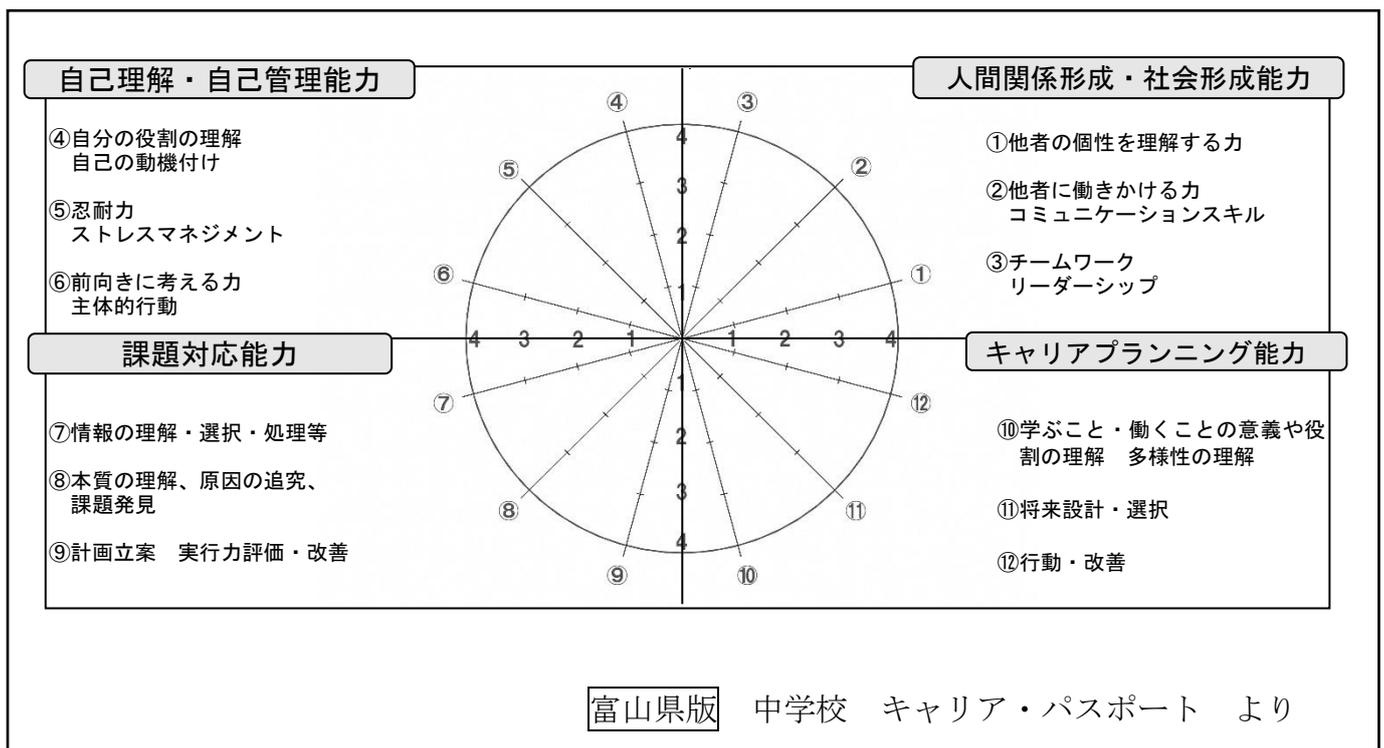
### 3 シートについて

「キャリア・パスポート」は、小学校から高等学校まで、学年、校種を超えて引き継いでいきます。そのため、各シートは、A4判（両面使用可）を原則とします。また、最終的には12年間分のシートが蓄積されますので、各学年のシートは、両面使用であれば5枚程度、片面使用であれば10枚程度を目安とします。

### 4 富山県版「キャリア・パスポート」の特徴

#### (1) 自己評価シート

児童生徒が、社会的・職業的自立を図るために必要と考える四つの力に関わって一人一人が自らの成長を実感することができるように、年度始めと年度末に自己評価をするシートを作成しました。レーダーチャートに表すことで変化を分かりやすくしました。



#### (2) 「なりたい自分」や地域活動の学びを記録・蓄積するシート

年度始めや各学期末に、一人一人が「なりたい自分」について記録したり、どれだけ近付けたか振り返ったりすることで、「なりたい自分」を描く児童生徒が増えることを期待しました。（次頁参照）

<p><b>年度始め</b></p> <p>来年の3月にどんな自分になって いたいですか。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>「なりたい自分」に近づくた めに、がんばりたいことを書 きましょう。</p>	<p><b>年度末</b></p> <p>○「なりたい自分」にどれだけ近づきま したか。</p> <p>(勉強のこと)</p> <p>(生活のこと)</p> <p>(友達のこと)</p> <p>こんな○年生になったよ！この1年 間でふえた、自分のよいところ</p> <p>こんな○年生になりたいな！</p>
--	---

また、一人一人がどんな地域  
行事に参加したのか、また、そ  
の際影響を受けた地域の人と言  
動を記録・蓄積することで、自  
分が暮らす地域への愛着を深め  
る児童生徒が増えることを期待  
しました。(右図参照)

**地域活動がんばりカード**

○自分が住んでいる地域のよいところ・好きなところ

○これから地域のためにがんばりたいこと

○心にのこった地域の活動や、お世話になった地域の  
人のがんばるすがたなど

## 5 富山県版「キャリア・パスポート」例示資料の活用

### (1) 大人(家族や教師、地域住民等)、仲間との対話的な関わり

小学生の中には、将来なりたい自分やその明確な時期等、具体的なイメージをもてない児童もいると思われます。大人は「キャリア・パスポート」の中の一人一人の思いや願いを認め、受け止めるように努めます。

一番身近な大人である教員や保護者、地域住民から認められるメッセージは児童生徒にとって、励みになります。大人が温かい言葉をかけたり、メッセージを贈ったりすることで、児童生徒が自分の新たな可能性を気付いたり、成長を実感したりすることができるようにすることが大切です。

また、児童生徒間で互いのがんばりを認め、励まし合うことも、一人一人の励みにつながります。付箋等を活用して、互いにメッセージを贈るなど、支え、励まし合うことができるようにすることも大切です。

## (2) 学年・校種間の引き継ぎ及び保管・管理

進級時には、次の学年に「キャリア・パスポート」を引き継ぐようにし、継続的に児童生徒の指導支援に活用していくようにします。卒業時には、次の学校に「キャリア・パスポート」を引き継ぐようにし、小・中・高を通して活用できるようにします。

個人情報を含むことが想定されるため、「キャリア・パスポート」の管理は、原則学校が行います。学年・転校に伴う学校間の引き継ぎは、原則、教師間で行います。校種間の引き継ぎは、原則、児童生徒を通じて行います。ただし、小学校、中学校間においては指導要録の写し等と同封して送付できる場合は、学校間で引き継ぐことも考えられます。

## (3) 特別な配慮を必要とする児童生徒への対応

個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた記録や蓄積となるようにします。

## (4) 富山県版「キャリア・パスポート」児童・生徒用、指導者用の電子データ

富山県版「キャリア・パスポート」児童・生徒用、指導者用は、富山県総合教育センターのホームページからダウンロードし、各学校の実態に合わせて編集することができます。